

フィールドスタディ C 実施報告書

訪問先：中華人民共和国 福建・深圳

活動期間：2023年7月30日（日）～8月6日（日）

研究テーマ：

A チーム 日中 IT 企業における技術人材確保の考察

B チーム 稲盛哲学から学ぶモチベーション向上

C チーム 大学提携による人材獲得の考察

D チーム 日中企業における従業員のモチベーションについて

【7月30日】

朝7時に羽田空港に集合して出発し、香港空港に到着した。そこから深圳への電車を予約し、高鉄に乗り、駅に到着した。ホテルに着き、中華料理の店で食事をした後、翌日の高鉄のチケットを予約した。こうして初日は移動で終わった。

【7月31日】

午前を高鉄に乗り、太姥山駅に到着した。ホテルにチェックイン後、巨龍光学の方と浙江工商大学の学生たちと夕食を共にした。実際に異文化交流をすることで新たな価値観を学び、多くの会話や文化の共有を通じて交流を深めることができた。

【8月1日～8月2日】中国福建 巨龍光学

8月1日から2日にかけて、明治大学経営学部フィールドスタディCの22名の学生が、浙江工商大学稲盛和夫商道研究センターの11名の学生と教員と共に、巨龍光学（福建）有限公司を訪問し、フィールドスタディを行った。巨龍光学は中国福建省の太姥山鎮に位置している。太姥山は山々に囲まれており、非常に美しい。今回の活動は、日本の学生に中国企業の管理実践と文化を深く理解する機会を提供し、日中両国の学術交流と協力に貴重な機会をもたらした。

活動初日の朝、巨龍光学の董贛明董事長が全社員と訪問団を率いて朝会を行い、日課である八段錦を体験した。この伝統的な中国の健康体操は、企業の健康文化を示すだけでなく、社員の団結力と一体感を強化するものである。明治大学の学生にとっては新鮮な体験であり、巨龍光学が社員の心身の健康とチームビルディングを重視していることを感じる事ができた。



朝会の後、巨龍光学の人事部長である朱部長が企業の使命、ビジョン、価値観について詳しく説明し、ビデオを通じて企業文化を紹介した。その後、学生たちは眼鏡の生産工場と実験室を見学し、生産工程、加工手順、原材料について学んだ。特に、記憶テスト、人工汗液テスト、落球テストなどの厳しい品質管理テストに大きな興味を持った。眼鏡博物館を見学することで、眼鏡の歴史と発展について深く理解した。



董事長は「使命の力」をテーマに、自身の起業ストーリーと巨龍光学の発展過程を共有した。彼は、企業の成功には明確な使命感と絶え間ない卓越性の追求が不可欠であると強調した。董事長の話は学生たちの大きな関心を引き起こし、質問が相次いだ。この交流セッションでは、明治大学の学生たちは、企業管理と発展に関する具体的な質問を数多く提起した。例えば、中国企業の人材確保の問題、社員の積極性向上の研究、国際的な人材育成、ソーシャルメディアを活用した企業内情報共有とコミュニケーション効率の向上、主観的な価値観の評価方法、コスト管理の実施方法、社員の評価と昇進のメカニズム、社員の創造力を維持するための戦略などである。これらの質問は、学生たちが巨龍光学の管理実践に深い関心を持っていることを示し、また、現代の企業管理について深く考察していることを示している。董事長と他の幹部たちは親切に質問に答えてくれた。



【8月3日】中国深圳 ビーワイディージャパン株式会社 (BYD)

BYD は、広東省深圳市に本社を置く中国の自動車製造企業であり、設立当初は充電電池の製造に専念していたが、その後自動車製造分野に転向した。現在、BYD は BYDF、F0、秦、秦 Pro、e5、速銳 (Surui) などの電動車およびプラグインハイブリッド車を展開している。中国国内に9つの生産拠点をもち、その総面積は約700万平方メートルに達す。また、アメリカ、ヨーロッパ、日本、韓国、インド、台湾、香港にも支社や事務所を設けて

おり、新エネルギー車の分野で高い評価を得ている。現在、BYDには30万人以上の従業員が在籍し、彼らは世界各地の生産拠点や支社に分散して、電池、電動車、電子製品、軌道交通などの事業を支えている。BYDの英語名称「BYD」は「Build Your Dreams」の略で、「夢を実現する」という意味を持ち、消費者に高品質な自動車製品を提供するという企業文化を反映している。

訪問当日、まず、BYDの展示庁を見学し、事業内容や発明の軌跡を辿りながら企業理解を深めることができた。短い時間ながらも、BYDの発展歴史を学び、革新的な技術内容とBYD全社員の努力に感動した。次に、新エネルギー車の見学を行い、実際に車に乗る体験をした。モニターなど最先端技術について学び、「日本にも欲しい車だ」と感じた。展示庁見学と試乗の後、多くの役員、知識財産および法務部門の趙総経理、アジア太平洋自動車販売事業部日本分公司の張常務董事、アジア太平洋自動車販売事業部の柯法務経理、人力資源部キャンパス採用の蔡総監にお会いし、事前に提出した質問に基づいて質疑応答を行った。役員の皆様は非常に親切で、学生たちの質問に丁寧に答えてくれた。

調査を通じて、BYDの成長の秘訣を理解するとともに、国際化された人材戦略に大きな興味を持った。BYDの革新と挑戦精神は、私たちに多くの学びと刺激を与えてくれた。今後の研究やキャリアにおいて、この経験を活かしていきたいと思う。



【8月4日】中国深圳 積木易搭テクノロジー株式会社

積木易搭テクノロジー株式会社は2015年に設立され、国内をリードするフルスタック型3Dデジタル化ソリューションプロバイダーである。深圳に本社を構え、武漢に研究開発センターを設立し、北京、広州、遼寧、香港などに支社を展開し、2022年には海外ブランド「3DMakerpro」を立ち上げた。技術力は160人以上の専門技術開発者を擁し、80%以上が修士以上の学位を保有している。研究開発投資は1.8億元で、国家レベルの新技術企業の認定を受けており、特許取得数は88件以上、ソフトウェア著作権は86件以上である。主要事業は3Dスキャナー、モデリングサービス、クラウドデザインツール、デジタルマーケティングサービスプラットフォーム、モデルビッグデータサービスプラットフォーム、ホログラム/AR/VR/インタラクティブ端末アプリケーションなどで、消費者向け3Dスキャナーの市場シェアは50%以上である。展示イベント、家庭、文化・博物館、芸術展示、政府機関、企業マーケティング、教育・研究、歯科医療など、20000以上のユニットと企業に3Dデジタル化ソリューションを提供している。

積木易搭テクノロジーの展示訪問では、まず、自動化真彩 3D スキャンシステムを見学した。このシステムは、最先端の 3D スキャン技術を利用して、実物のオブジェクトをリアルタイムでスキャンし、高精度な 3D モデルを生成する。私たちはこのプロセスを詳しく見学し、3D スキャン技術の革新性と利用可能性に感銘を受けた。特に、VR やバーチャルリアリティがますます重要になる現代において、この技術の役割の大きさを実感した。展示訪問の後、質疑応答セッションが行われた。私たちは積木易搭の技術についてさらに詳しく知りたいと思い、積木易搭の技術者にさまざまな質問を投げかけた。特に、実際に物体をスキャンし、3D 化する技術に関して驚きと感銘を示した。また、3D プリンターの技術や、新たなオンラインショッピングの形態としての 3D アバターに関する質問も行われた。積木易搭の技術者は、親身になってこれらの質問に答え、私たちの興味を引き出した。質疑応答セッションでは、私たちは自身の研究やキャリアに役立つ貴重な情報を得ることができた。我々は積木易搭の技術に対する興味と感銘を示し、今後も日中の IT 技術の違いや成長企業の特徴について研究を深める意欲を高めた。



【8月5日】

各自で自由行動を行い、中国社会を観察し中国文化を体験した。

【8月6日】

深圳を出発し、高鉄で香港に到着後、飛行機で羽田空港へ移動して解散した。

今回のフィールドスタディは、明治大学の学生たちが中国企業について理解を深めるだけでなく、日中両国の企業管理と文化の交流と協力を促進するものとなった。この活動を通じて、学生たちは生きた経営学を学び、企業文化の重要性と力を体験した。明治大学の学生は、中国企業および中国の大学との深い交流を通じて、さらに国際的な視野を広げ、今後の研究に向けて確固たる基盤を築いた。また、今回のフィールドスタディで訪問した企業の皆様には大変お世話になり、貴重な学習機会を提供いただいた。ご協力・応援してくださった企業の皆様に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

カク 燕書 専任教授